



2023年度提案募集に向けたワークショップ
「どのような時に人は孤立・孤独に陥るの？
その一次予防の仕組みを考える」

2023年3月29日(水)

社会的孤立・孤独に 陥りやすい状況とは？

柳澤邦昭(神戸大学)

新生活に伴う孤独リスクの可視化と一次予防

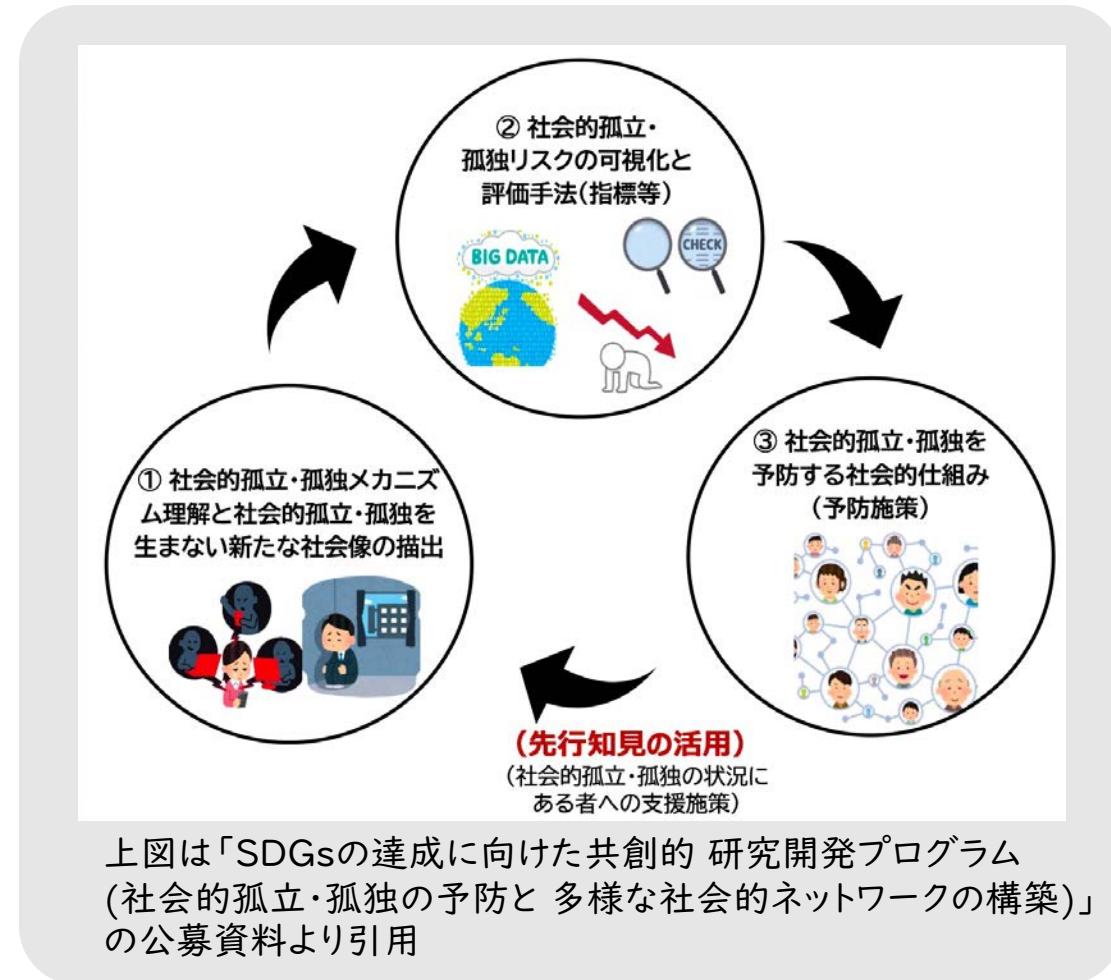
(2021年度採択)

PJ概要

新入生や新社会人がどのような状況で孤立・孤独に陥りやすいのかを理解し、リスクを数値化するとともに、効果的な予防策を明らかにする

研究開発要素

- ① 新生活で生じる孤立・孤独メカニズムの解明
- ② 機械学習を応用した孤立・孤独リスクの可視化
- ③ 孤立・孤独の予防策の実施



A) 孤立・孤独が生じやすい
(生じにくい)
個人要因、状況要因の特定

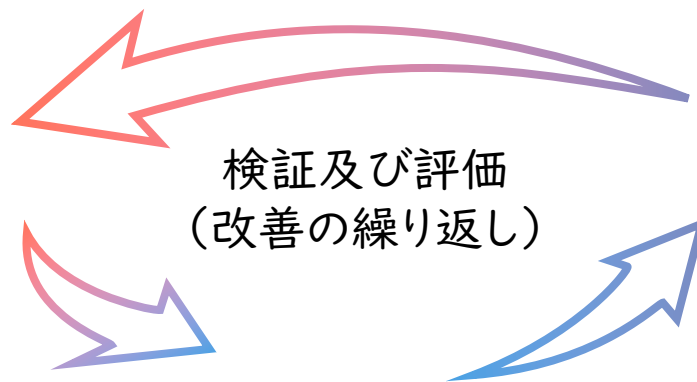
- Web調査
- SNS
- 脳画像
- ウェアラブル端末

1 メカニズムの解明

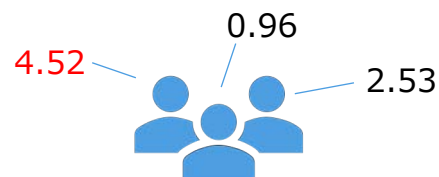
B) 集団要因および
コロナ禍の影響を特定

- オンライン導入状況
- 交流企画の有無
- 組織のサポート など

機械学習を応用
→ リスク計算



A) 個人の孤立・孤独リスクを
測定する検出器の開発



2 リスクの可視化

B) 集団レベルの
孤立・孤独リスクを数値化



A) 保健管理センター
との連携



- 健康診断でのチェック

3 予防策の実施

B) 各大学の改善へ
向けた取り組み

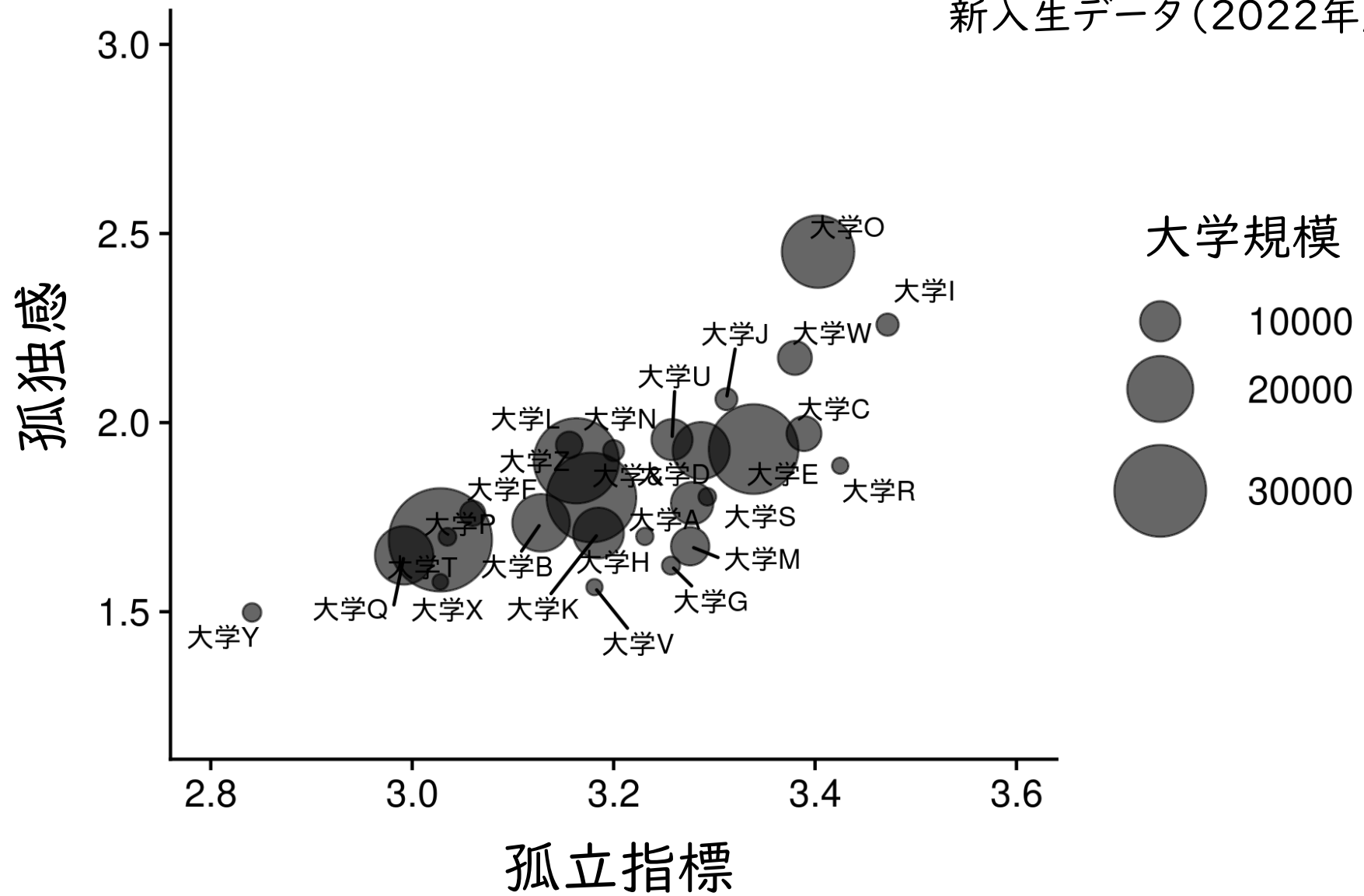


- グループワークの導入
- ベストプラクティス集の作成

A) 個人レベルの要因の検証サイクル

B) 組織・集団レベルの要因の検証サイクル

新入生データ(2022年度データ)



環境の“変化”

- 人間関係の大きな変化
- インターネットの普及
- コロナ禍の影響
- ポストコロナ



インターネットの
人口普及率

(総務省 通信利用動向調査)

1997年
9.2%

2002年
57.8%

2013年
82.8%

2020年
緊急事態宣言
(1回目)



ポストコロナ
学習形態の多様化



個人レベル
要因

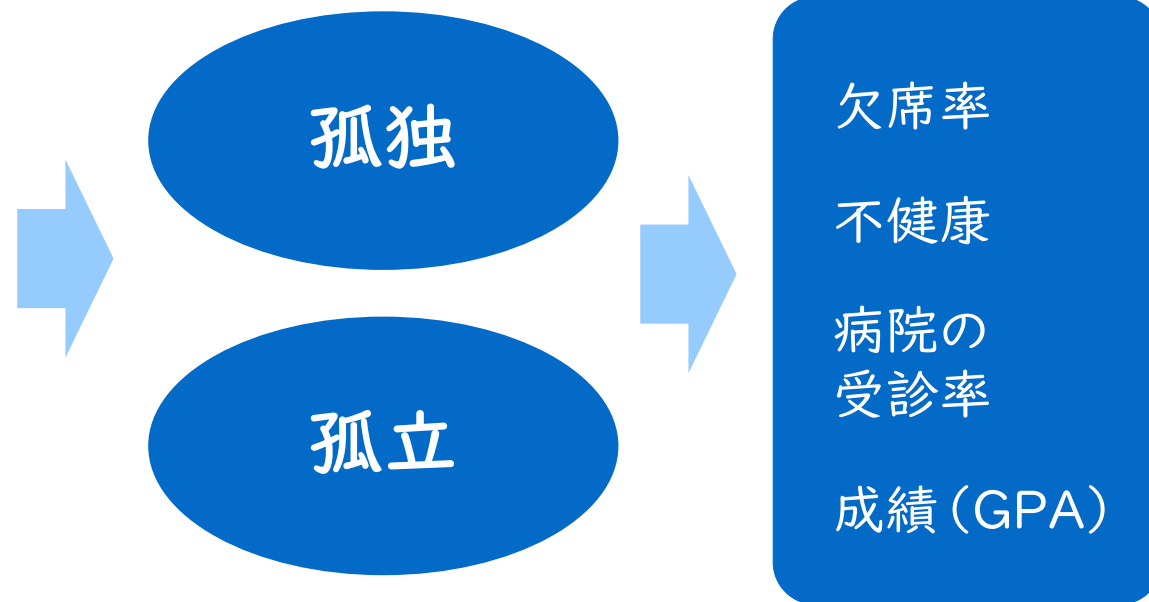
パーソナリティ 健康
性別 パートナーの有無

大学レベル
要因

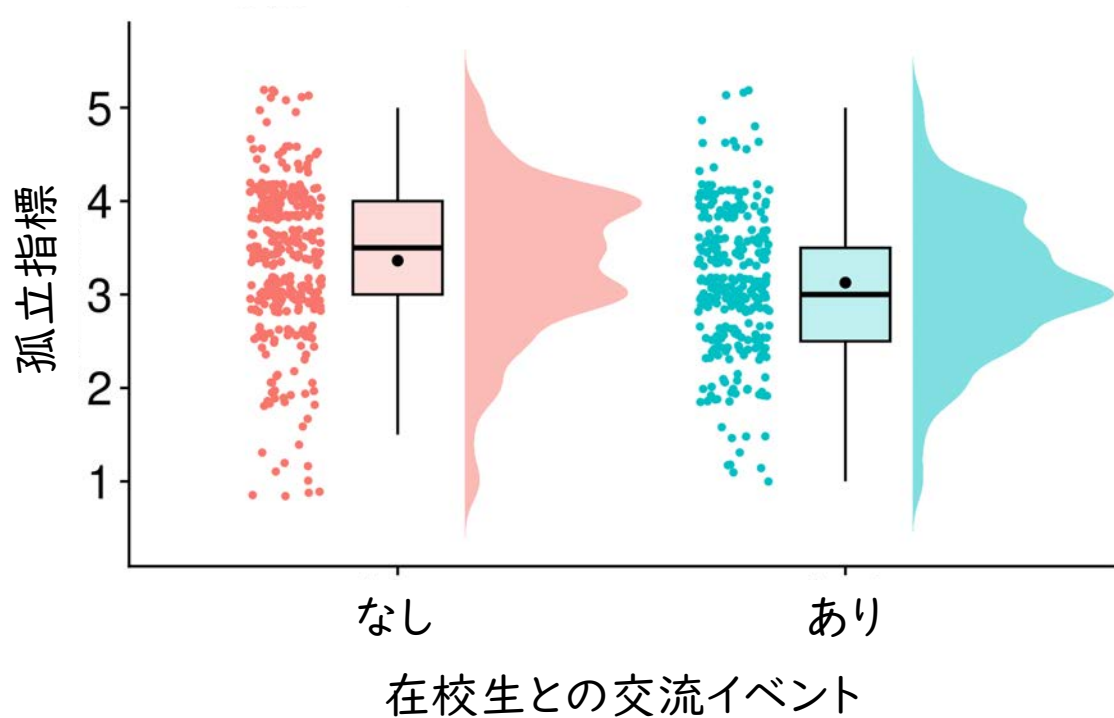
学年 学部・学科
規模
オンライン授業の実施
オンライン面談の実施
在校生との交流イベント
大学サポート(ネット)
大学サポート(給付金)
少人数制演習

大学外
要因

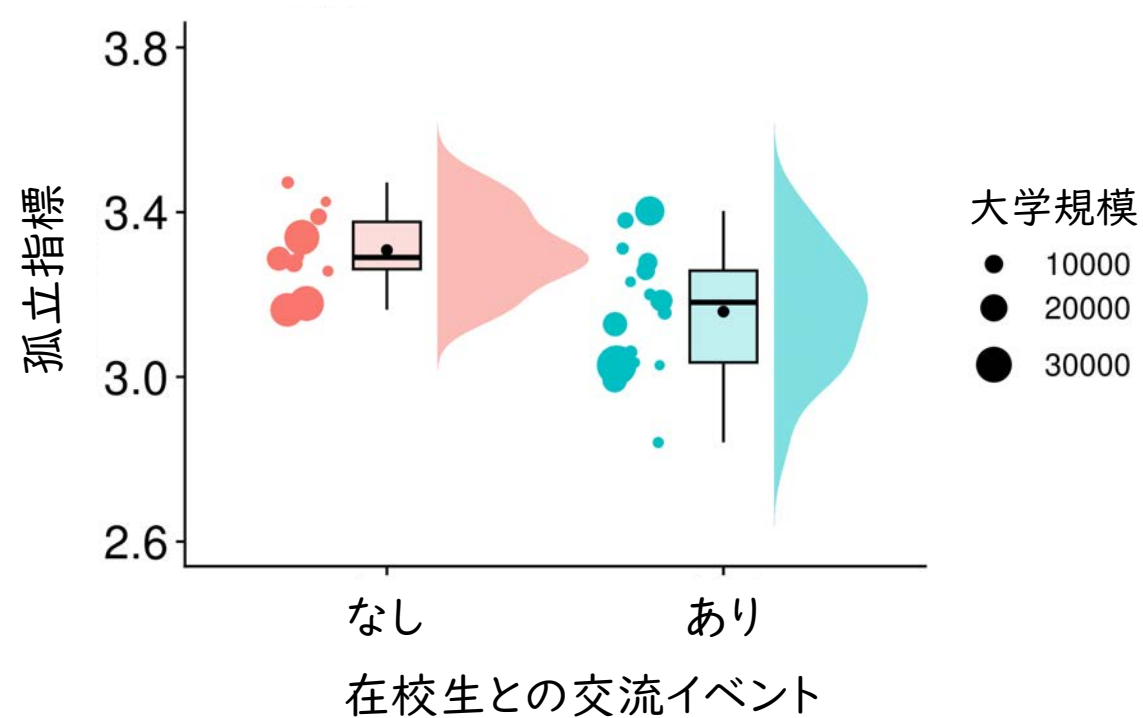
アルバイト・サークル
住環境(一人暮らし)
ネット環境



2021年度データ



2022年度データ



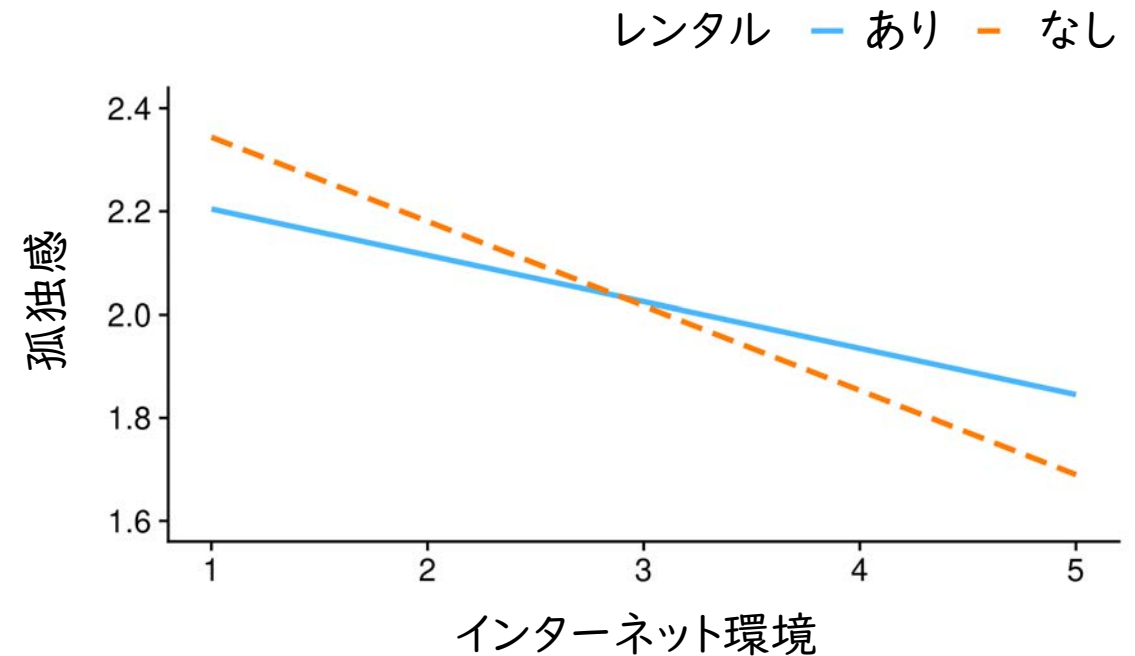
デジタル・ディバイドの問題

- 経済的理由やインターネット環境・スキルの不足で情報・学習に制限が生じる
- デジタル・ディバイドは大学生でも生じる可能性
- 誰もが情報技術を活用できる環境を整備することが求められる

→ コンピューター関連の機器の貸与
インターネット環境整備
情報技術教育の提供

……が必要

2022年度データ



まとめ

研究開発要素①

孤立・孤独に陥りやすい状況とは？

- 環境の変化が鍵
新生活
コロナ禍の影響
ポストコロナ
- 集団レベルの影響



研究開発要素③

孤立・孤独の一次予防

- 交流が促進される取り組みの推進
- 人々がつながりやすい環境の整備が必要

研究開発要素②

リスクの可視化(評価)

- 現在の状況のリスク評価
- 予防策の効果検証